

部を1~4分で捕食したが、左巻きでは約30%を失敗。かかる時間やあごを動かす回数も左巻きだと約50%多く、手間取っていた。

下あごの右の歯は、平均25本と、左の17.5本の約1.4倍だった。

細さんは「このヘビはふ化直前の段階から右の歯が多い。東南アジアでは左巻きのカタツムリが比較的多く、ヘビに捕食されないよう進化したと思われる」と話した。

た実験用メダカ

溶液に雄のメダカ100匹を入れた。約80匹が生き残り、これと健康な雌との間で生まれた雄5760匹の精子を凍結保存した。

メダカのゲノム(全遺伝情報)は解読されており、保存した精子のDNAを解析し、目的の遺伝子が壊れている精子を特定、これを健康な雌の卵子と人工授精した。生まれた世代同士を組み合わせて子どもをつくった。通常は一つの遺伝子を両親からそれぞれ受け継ぐが、この方法で両方の遺伝子が破壊されたメダカができた。



して腸管がんを発生させたメダカが発病した腸管(京都大提供)



「三コ二コ笑い合っている子どもも、実は傷つくな」を怒りて体を硬くしている」と話す正嘉昭さん 東京・新宿の東放学園高等専修学校

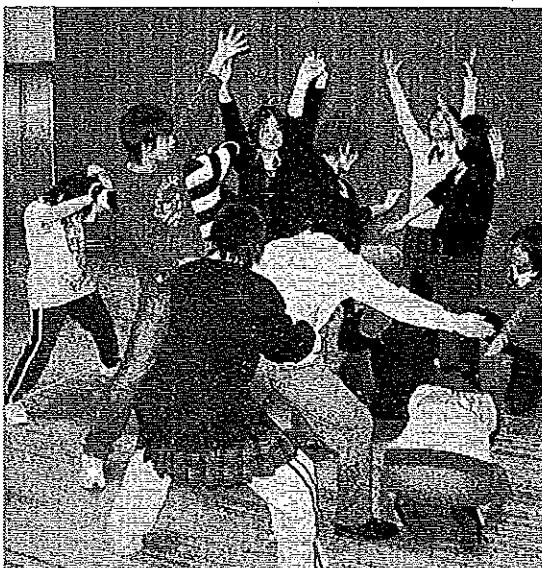
表情や動作で相手や周囲の状況をとらえ、自分の意思や感情を伝える多彩なレッスンが続く。二人で背中合わせに床に座り互いに体を預けながら、いつまで続くか。ゲーム感覚だが、五感を駆使しながら演劇部を指導していた正嘉昭さんが、演劇による色彩を駆使していなかった。順番を決められない点钟のように「から」を應用した「遊び」を考えた。普段の生活にも役立つと言つ」と語る。

大学で演劇に熱中し、中学校で国語を教えたが、どちら演劇部を指導していた。正嘉昭さんが、演劇による色彩を駆使していなかった。順番を決められない点钟のように「から」を應用した「遊び」を考えた。普段の生活にも役立つと言つ」と語る。

人間関係、体で感じて

演劇と遊びを教育に導入

相手の存在を体で感じ、自分を素直に表現する。そんなコミュニケーションの基本を学んでもらおうと、演劇と遊びの要素を取り入れた教育プログラムがある。名付けで「ドラマケーション」。開発した高等専修学校講師の正嘉昭さんは「傷ついた。合図や掛け声なしで息を合わせた十四人の顔に、少し誇らしげな笑みが浮かぶ。「いいですね。この瞬間がたまらなく、人間関係の味わい深さに気づく」と話す。



集団でオブジェになるドラマケーションのレッスン。全身で表現する心地よさを味わう= 東京・新宿の東放学園高等専修学校

他者を認める懐の深さ、身に

遊びには、すばらしい効用があると説く。鬼っこで悲しく悔しいが、それは虚構の世界の出来事。遊び終われば、ネガティブな感情は消える。「だからこそ、かつて子どもが遊んだ空き地や路地裏は『何でもあり』で、人と人が触れ合う際の喜怒哀楽を思い切って味わうことができたんです」

そんな遊び場がない現代の子どもは、狭い交友関係の中で場の空気を読むのは得意だが、傷つけ合つを恐れ、思いを伝えるのは苦手。正さんは「その分、怒りや恨みなどが台に上り、仲間が差し伸べる腕の上に身を投げれるレッスンも。落差は約一・五倍。緊張しながら、他者を信頼し、励ましに応えようとする姿が感動的だった。

では」と指摘する。この日の授業では、一人が台に上り、仲間が差し伸べる腕の上に身を投げた。普段の生活にも役立つと言つ」と語る。

半年の授業を終えた生徒たちには、自分と異質な他者を認め、理解しながら解ける懐の深さが身につく。良い子、悪い子、勝ち組と負け組など、すぐレッテルを打ち解ける懐の深さが身につく。良い子、悪い子、勝ち組と負け組など、すぐレッテルを打ち解ける懐の深さが身につく。良い子、悪い子、勝ち組と負け組など、すぐレッテルを打ち解ける懐の深さが身につく。良い子、悪い子、勝ち組と負け組など、すぐレッテルを打ち解ける懐の深さが身につく。

五感を駆使する「ド・ラ・マ・ケ・ー・シ・ン



L.D.

明彦さん

しみは、

アップとの

つた。ハ

つは頭、

分かつて

るのに

ない、事

落差に

だ。

軽音